



東海(恵南)豪雨

平成12年(2000)9月11日

マリアナ諸島で発生した台風14号は、9月12日3時には中心付近の気圧が935hPaと非常に大きな勢力を保ちながら、ゆっくりと西に進んでいきました。一方、本州上には秋雨前線が停滞し、この前線に向かって台風からの暖かく湿った空気が流れ込み、東海地方では大気が非常に不安定な状態となりました。

庄内川水系では都市型水害を引き起こし、矢作川水系では矢作ダムの計画規模を超える豪雨が襲った。

(庄内川水系)

台風14号に刺激されて活発化した秋雨前線は、愛知県内の時間最大雨量の記録を更新するなど、県内の各地に猛烈な雨をもたらしました。中でも名古屋市の浸水被害は甚大で、人口・資産・インフラが集中する「都市を襲う災害」への対策の重要性を再認識させた水害となりました。

愛知県の年間総雨量1/3の567mmが2日間で降り、時間最大93mmを記録した大雨がもたらした大規模な都市型水害。



9月11日、大型の台風14号と、動きを活発化させた秋雨前線によって発達した雨雲は、11日夕方から夜遅くにかけて愛知県内の各地で記録的な雨を降らせ、翌12日の明け方まで続きました。

庄内川・新川流域では、11日午後7時に時間最大雨量93mmを記録、11日未明から12日までのわずか2日間で、年間総雨量(約1,700mm)の1/3にあたる567mmもの大量の雨が降りました。この結果、庄内・新川流域・天白川流域など、名古屋市および周辺地域で、多数の深刻な浸水被害が発生しました。また、新幹線や在来線を含めた公共交通機関が不通となり、道路も冠水によって寸断されるなど、名古屋市の都市機能は完全に麻痺しました。